

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

母が仕事で朝早く家を出るようになって、弁当は父が作るようになった。最初の日、弁当のふたを開けると、ごはんの上に、黒くこげた卵焼きがのっていた。

「うわ、なにそれ。」

隣の席の健太が笑った。私はあわててふたを閉めた。顔が熱くなった。その日、私は卵焼きを残して、弁当箱を持って帰った。

台所で弁当箱を洗おうとしていた父は、残った卵焼きを見て、何も言わなかった。ただ、少しだけ眉が下がった。

次の日も、その次の日も、卵焼きは入っていた。二日目は形がくずれていて、三日目は甘すぎた。私は、父に言おうと思った。卵焼きはいらないから、と。けれども、朝、台所に行くと、父は流しの前で、フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた。画面には、卵焼きの作り方の動画が映っていた。

「おはよう。」父は画面から目を離さずに言った。「今日はいけると思う。」

私は、言おうとしていた言葉を飲みこんだ。

昼休み、ふたを開けると、黄色い卵焼きがきちんと三切れならんでいた。一切れ食べると、少しだけ塩が多かった。でも、ちゃんと卵焼きの味がした。

「今日のはふつうじゃん。」健太がのぞきこんで言った。

「ふつうじゃないよ。」私は答えた。「四日かかったんだから。」

健太は意味が分からないという顔をした。私はかまわずに、二切れ目を口に運んだ。

その夜、洗い終わった空の弁当箱を、父の前に置いた。父は弁当箱を持ち上げて、軽さを確かめるように少しふった。それから、何も言わずに、小さく笑った。

(この問題のための書き下ろし)

問一 最初の日のお弁当に入っていたのは、どんな卵焼きでしたか。本文中から十字以内で抜き出さない。

黒くこげた卵焼き

問二 「少しだけ眉が下がった」とありますが、このときの父の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 私が卵焼きを残したことに気づき、がっかりしている。

イ 弁当箱が汚れていて、洗うのが面倒だと思っている。

ウ 私が卵焼きを好きではないと知って、ほっとしている。

エ 仕事で疲れていて、眠くなっている。

ア

問三 私が「言おうとしていた言葉を飲みこんだ」のは、父のどんな姿を見たからですか。「姿」につながるように、本文中から二十五字以内で抜き出さない。

フライパンを片手に、スマホの画面をにらんで

問四 私が健太に「ふつうじゃないよ」「四日かかったんだから」と答えたとき、どんなことを思っていましたか。父の様子にふれて、五十字以内で説明しなさい。

父が失敗をくり返しながら動画で調べ、四日のだてやっとな。卵焼きの特別な日も

問五 最後の段落の父の様子説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 弁当箱が重いので、まだ残っていると思い、がっかりしている。

イ 空の弁当箱の軽さで私が全部食べたと分かり、言葉にせずに喜んでいる。

ウ 弁当箱がこわれていないかを確かめている。

エ 明日から弁当を作らなくてよいと分かり、安心している。

イ

【中2】国語 文章問題 物語文 2 答えと解説

問一（二十点） 答え：黒くこげた卵焼き

解説：第一段落の最後が根拠。この失敗から、四日目の「黄色い卵焼き」までの変化が物語の軸になっている。

問二（二十点） 答え：ア

解説：直前の「残った卵焼きを見て、何も言わなかった」が根拠。言葉にしない残念な気持ちが、眉の動きに表れている。

問三（二十点） 答え：フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいた （父は流しの前で、フライパンを片手に、スマホの画面をにらんでいたでも正解）

解説：第五段落が根拠。父は卵焼きの作り方の動画を見ながら、うまく作ろうと努力していた。それを見て、「卵焼きはいらない」と言えなくなった。

問四（二十点） 答えの例：父が失敗をくり返しながら動画で調べ、四日かけてやっと作れた卵焼きなので、特別なものだと思っていた。

解説：見た目は「ふつう」でも、私はこげた日・くずれた日・甘すぎた日と、動画を見る父の姿を知っている。その四日間の努力が、「ふつうじゃない」という言葉にこめられている。

採点のポイント：① 父が失敗しながらも調べて作り続けた（努力した） ② だから特別な卵焼きだと感じている（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点） 答え：イ

解説：「空の弁当箱」「軽さを確かめるように」「小さく笑った」が根拠。第四段落の「何も言わなかった。ただ、少しだけ眉が下がった」と対になっている。